

【個性と工夫に満ちた魅力ある都市と地方】

名古屋港[飛島ふ頭南地区]国際海上コンテナミナル(水深16m岸壁等)

【整備概要】

欧州航路等のコンテナ貨物量の増大や、積載能力8,000TEUを超えるコンテナ船の大型化に対応するため、飛島ふ頭南地区において、水深16mを有する国際海上コンテナターミナルの2バース目を新たに整備する。

併せて、運営主体となる民間ターミナルオペレーター等に対するソフト支援施策を推進し、アジアの主要港を凌ぐコスト・サービス水準の実現を目指す。

公共投資の概要	総事業費	約376億円
	整備期間	H17～H21
	整備施設	岸壁(-16m)等
整備効果	<ul style="list-style-type: none"> ・入港船舶の大型化による海上輸送コストの削減 ・輸送効率の向上による輸送時間の短縮等 	

【整備箇所】



【個性と工夫に満ちた魅力ある都市と地方】

大阪港[北港南地区]国際海上コンテナターミナル(水深 16m 岸壁等)

【整備概要】

欧州航路等のコンテナ貨物量の増大や、積載能力 8,000TEU を超えるコンテナ船の大型化に対応するため、北港南地区において、水深 16m を有する国際海上コンテナターミナルを新たに整備する。

併せて、運営主体となる民間ターミナルオペレーター等に対するソフト支援施策を推進し、アジアの主要港を凌ぐコスト・サービス水準の実現を目指す。

公共投資の概要	総事業費	約 4 5 8 億円
	整備期間	H 1 7 ~ H 2 4
	整備施設	岸壁 (- 1 6 m) 等
整備効果	<ul style="list-style-type: none"> ・ 入港船舶の大型化による海上輸送コストの削減 ・ 輸送効率の向上による輸送時間の短縮 等 	

【整備箇所】



【個性と工夫に満ちた魅力ある都市と地方】

常陸那珂港[中央ふ頭地区]複合一貫輸送ターミナル(水深9m 岸壁等)

【整備概要】

増加する内貿RORO貨物や船舶の大型化に対応するため、中央ふ頭地区において複合一貫輸送ターミナル（水深9m岸壁等）の整備に着手する。

公共投資の概要	総事業費	約51億円
	整備期間	H17～H20
	整備施設	岸壁（-9m）等
整備効果	内貿RORO貨物の増加や船舶の大型化に対応が可能となり、北関東圏で取り扱っている貨物の輸送時間の短縮、物流コストの削減が可能となる。	

【整備箇所】



【個性と工夫に満ちた魅力ある都市と地方】

福山港 [本航路地区] 航路 (水深 16 m)

【整備概要】

鉄鋼港湾制度により整備を行った航路の一部が埋没していることから、埋没箇所の航路機能を回復して、航行船舶の安全性の向上や物流コストの削減を図るため、航路(水深 16m)の整備に着手する。

公共投資の概要	総事業費	約104億円
	整備期間	H17～H20
	整備施設	航路(-16m)
整備効果	喫水調整による積載貨物量の減少を解消して物流コストを削減し、航路を航行する船舶の安全性を向上させる。	

【整備箇所】



【個性と工夫に満ちた魅力ある都市と地方】

高松港[朝日地区]多目的国際ターミナル(水深 12m 岸壁等)

【整備概要】

大型バルク貨物船の喫水調整など非効率・不経済な輸送の解消や、南海地震等の大規模地震発生時の緊急物資輸送に対応するため、多目的国際ターミナル（水深 12m 岸壁等）の整備に着手する。

公共投資の概要	総事業費	約 88 億円
	整備期間	H17 ~ H22
	整備施設	岸壁(-12m)等
整備効果	3万DWT級大型船の喫水調整及び、神戸港等からの二次輸送等、非効率・不経済な輸送の解消や、南海地震等の大規模地震発生時に緊急物資輸送の拠点して機能する。	

【整備箇所】



神戸港ポートアイランド2期地区 次世代高規格コンテナターミナル事業化検証調査

【調査の背景】

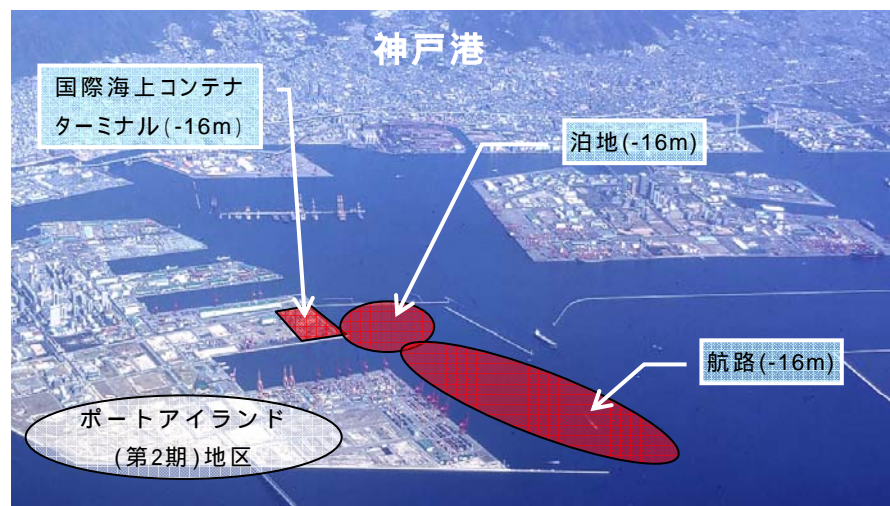
欧米等基幹航路に就航する超大型コンテナ船の建造が進展し、コスト・スピード・サービス面でのアジア諸港との国際競争がますます激化している。

このような中でスーパー中樞港湾神戸港において、次世代高規格コンテナターミナルの整備や港湾機能の高度化が、国際港湾都市神戸の発展ひいては近畿経済の活性化のため必要不可欠となっている。

【調査の内容等】

神戸港の現状を精緻に分析するとともに、国と港湾管理者である神戸市と一体となって、集荷力増大・利便性向上方策やバース等の再編プランを検討する。

併せて、ポートアイランド2期地区次世代高規格コンテナターミナル（-16m）について効率的・効果的な施設整備方策を検討する。



【個性と工夫に満ちた魅力ある都市と地方】

博多港 アイランドシティ地区 国際海上コンテナターミナル事業化検証調査

【調査の背景】

博多港は、西九州の経済・生活を支える中枢国際港湾として、また、東アジア諸港における国際競争の最前線として、我が国の港湾競争力を確保してきた。しかし、背後圏の活発な経済活動とともに、国際海上コンテナ取扱貨物が急増していることや、輸送船型の大型化が進むなかで、既コンテナふ頭は利用限界に達しており、地元経済界等から、国際海上コンテナターミナルの早急な整備が求められている。

【調査の目的等】

早急に事業効果を発現するために、最も早期かつ効率的に競争力を強化できるような整備手法を検討する。

また、中長期的に港湾の安定的な競争力を確保するためには、地域における港湾間連携が必要不可欠であることから、海外事例等を調査し、ソフト面で港湾連携を促進するための整備手法を検討する。



【循環型社会の構築など環境問題への対応】

有明海海域実施設計調査

【調査の背景】

有明海・八代海においては、沿岸域の埋立や干拓事業などにより水質が悪化し近年様々な環境問題が生じている。そのため総合的な環境改善対策として、海域環境の保全・再生が求められている。

【調査の目的等】

港湾整備より発生する浚渫土を活用した泥質干潟の造成により、水質浄化機能及び生物生息・生産機能の回復と向上を目的に、泥質干潟の造成技術について検討調査を行う。

【計画箇所】

有明海 三池港及び大浦港

